

「この会社を選んだ理由、この仕事が好きな理由」●新卒採用編

CBREピープル 新卒採用編

CBREにとって「人材」は大切な資産。
未来を切り拓き、成長できるチャンスがここにある。

未来の可能性は無限大。
自らのアンテナを磨き
目の前にあるチャンスをつかめ。

CBREは今年(2021年4月・9月)合計で9名の新入社員を迎えました。コロナ禍の影響でさまざまな環境の変化が続く中、今後のCBREの成長のため、新入社員に期待することを坂口社長に伺いました。



シービーアールイー株式会社
代表取締役社長兼CEO 坂口 英治
SAKAGUCHI EIJI

CBREのような不動産を保有しない事業用不動産サービス会社が、企業としての競争力を向上するために大切なのは人材です。社員一人ひとりが情熱を注ぐ価値があると思える企業文化を形成することが重要です。同じCBREで働いている仲間同士、新入社員でも30年選手でも、互いに尊重しあうパートナーシップのカルチャーに近づきたいという思いがあります。キャリア採用の社員が大部分を占めるCBREにとって、新卒で入社し、真っ新な状態からCBREのカルチャーを経験し伝えていく人材は、そうした企業文化の発展を進める上でとても貴重な存在です。また、社会貢献として、若い世代に働く機会を提供し、社会の安定性につなげることも大切だと考えています。ですから、今後も新卒を一定数採用していきたいと思っています。

変化の時代と言われて久しいですが、価値観も大きく変化していることを私自身実感しています。今、読んでいるアダム・グラントの新著「Think Again」のテーマは、自分の中の固定概念を捨てて、考え直そうというものです。若い世代の考えを理解するにも、ビジネスを考える際にも、今、自分にとって常識だと思っていることは本当に常識なのかとあらためて問い直すようにしています。例えば、オフィスリーシングのために、2年前からデジタルマーケティングプロデューサーのポストを設けています。伝統的な営業活動からすると隔世の感がありますが、そこからの商談が非常に増えています。若い世代の得意とするSNSを使ったマーケティングの広がりも含め、すべての社員が固定概念を捨て、「偏見のない心」を持ち、新しいビジネス機会を発見し、積極的にチャレンジしてもらいたいと思っています。

あなたたちの未来には、無限の可能性が広がっています。あらゆるアンテナを張り、努力を怠らず、平等に訪れるチャンスを決して逃さぬように、毎日を過ごしてください。



NEGAMA TOSHIKI, FURUKI SHOKO, OI YUDAI, NISHIO TAMAMI, HORIUCHI MANAMI, NAMATAME RIKU, ITO NAO



NOGUCHI AYAKA

2021年9月入社(2名)



HIROOKA TATSUYA

2021年4月入社(7名)

2021年度 新卒社員コメント

大井 雄大 OI YUDAI
CBREには不動産の各方面のプロの方々が入籍しており、その方々が常に高いモチベーションを持ち業務に取り組まれています。そのような方々にもまれ成長し、CBREのさらなる発展に貢献できるよう日々精進して参ります!

生天目 陸 NAMATAME RIKU
色々な価値観を尊重するCBREの雰囲気大好きです。それゆえにさまざまなバックグラウンドを持ったメンバーが集まっている会社だと思うので、その中で少しでも早く自分の色を、仕事でも人柄でも示していければと思います。

根釜 俊貴 NEGAMA TOSHIKI
CBREに入社できて本当に良かったと思っています。日々新しい情報に触れ刺激的な日々を過ごしているので、今後も積極的な姿勢を忘れず着実に成長し、先輩方と共にCBREに貢献していきたいと存じます!

野口 彩夏 NOGUCHI AYAKA
私がCBREを選んだ決め手は風通しの良い企業カルチャーと開放的で洗練されたオフィスです。一日でも早くこの素敵なオフィスに似合うような社員になり、即戦力になれるよう日々努力したいと思います。

伊藤 直 ITO NAO
CBREに入社してから、先輩方の仕事に対する姿勢に刺激を受け続けている毎日です。私もCBREの一員として誇れるように精進して、専門性の高い分野を自分で開拓していきたいと思っています。

西尾 たまみ NISHIO TAMAMI
CBREは仕事に対しても人に対しても熱い方が沢山いる素晴らしい職場だと日々実感しています。今の時期だからこそできることをしっかり行い、早く皆さまに「たまみちゃん」と思っていただけのように頑張ります!

古木 翔子 FURUKI SHOKO
CBREは仕事に熱意を持って取り組んでいる方が多く、日々刺激を受けながら過ごすことができている。先輩方にできるだけ早く追いつき、追い越せるよう、精いっぱい頑張ります。

堀内 愛美 HORIUCHI MANAMI
CBREには外資系ながら人との関わりがしっかり持てる働きやすい環境があります。これらを活かし成長し続け、先輩方に追いつけるように頑張ります。これからの自分自身の成長が楽しみです!

廣岡 辰哉 HIROOKA TATSUYA
入社初日はかなりガチガチに緊張しておりましたが、先輩方が本当に親身に話してくださり今では大分慣れてきました。また、会社全体として自由度が高く、とてもいい環境だと感じております。これから沢山学びたいと思います。

CBRE先輩社員が語る

「この会社を選んだ理由、この仕事が好きな理由」

優れたロールモデルの存在が 新たな人材につながる CBREの人的ネットワーク

事業用不動産サービスの分野で世界最大手であるCBRE Groupの日本法人として、幅広いサービスラインを全国規模で展開するCBRE。外資系企業ということで、個人主義・成果主義というイメージを持たれている面もあるようです。そこで今回は、新卒入社5年以内の若手社員に登場いただき、実際のCBREの姿と、そこで得られるキャリアややりがいなどについて、忌憚のない意見を伺いました。



アドバイザー&トランザクションサービス オフィス
コンサルタント

九里 すみれ | Kuri Sumire
〔2016年4月入社〕



プロパティマネジメント本部 西日本プロパティマネジメント部 関西
コンサルタント

合原 拓也 | Gohara Takuya
〔2016年4月入社〕



プロジェクトマネジメント 関西プロジェクトマネジメントグループ
プロジェクトマネジャー

西川 嘉一 | Nishikawa Yoshikazu
〔2017年4月入社〕



聞き手
人事部 タレントアキュイジション

佐瀬 祐実 | Sase Yumi

○JT時代の出会いが その後の業務を強力にサポート

— まずは現在の所属部署とその業務内容を教えてください。

九里 ■ 私は主にオフィスの賃貸仲介をするアドバイザー&トランザクションサービスオフィス(以下ATSO)という部署で、コンサルタントをしています。お客様の不動産課題に対して、CBREのサービスラインを活用して解決するために提案していく業務です。新規物件に移転するか、そのままビルに残るかなど、さまざまな可能性を考慮して案件ごとにお客様のメリットが最大になるようにする仕事です。

西川 ■ 私はプロジェクトマネジメント部(以下PJM)に、新卒配属時からおりまして、現在は関西PJMグループで、プロジェクトマネジャーをしています。業務内容は主に企業様の移転プロジェクトにおけるコストやスケジュールの管理、ベンダーのマネジメントです。また移転だけでなく、開発物件の企画からマネジメントまでに携わる案件もあります。現在は移転系のプロジェクトと、企業のブランディングに関わる建物の大規模改修といったプロジェクトに携わっています。

合原 ■ プロパティマネジメント部(以下PM)に所属しています。PMは主に事業用不動産のオーナーの代行として、ハードソフト両面の運営の管理を行っています。今年の1月に、PM本部にビジネスディベロップメントチーム(以下BDチーム)が設立され、そこに配属され、この10月からは関西支社に異動しました。同部署のメンバー3名で、名古屋から沖縄までのアセットについて、新規PMの受託営業と、管理委託された物件の立ち上げ業務に携わっています。

— CBREに入社を決めた最大の理由は何かですか？

西川 ■ 大学・大学院まで建築を学んでおり、不動産物件の開発、設計ではなくさらに上流のプロジェクトマネジメントを希望していました。CBREはそういうサービスをグローバルに展開しており、私自身も海外での業務にも興味があったのでいい会社なのではないかと。ただ最終的な決め手は人の部分です。入社前に先輩社員に会わせてほしいとお願いしたところ、今の部署の部長が率先して会ってくれました。情熱を持った真摯な方だという印象を受け、一緒に働きたいと思ったのが最大の理由ですね。

合原 ■ 大学の先輩が当時、CBREで働いていて、声をかけられたのがきっかけです。仕事は充実しているし楽しいからと、熱心に誘ってくれたことが一番の決め手です。最終面談を東京本社で受けたのですが、オフィスのきれいさと機能性の高さに心惹かれたことも大きいですね。今いる大阪のオフィスも、コンパクトでいい意味で物理的な距離が近く、人と人とのコミュニケーションがとりやすいのが魅力ですね。

九里 ■ 私も人に惹かれたのが決め手ですね。選考は人事面接、社員との座談会、部長面談と進んだのですが、常に話しやすい雰囲気があって、こういう会社で働きたいと感じました。もう一つはグローバルに事業を展開しているのが、不動産に関連するあらゆることにチャレンジできるところですね。

— 入社後のOJT(On-the-Job Training)



Kuri Sumire

は、年度によって期間や方法が異なると思いますが、そこで学んだことや、配属後に役立ったことはありますか？

九里 ■ 私と合原さんは2016年度の入社ですが、その年度は拠点を含めて3~4部署をそれぞれ3~4ヶ月かけて回るというシステムでしたね。それだけいるとその部署がどんな業務をしているか、大体のことはわかるので、配属後にサービスラインを活用して仕事をやる上で役に立っていますね。もう一つは人脈の部分で、ATSOに配属されてからも、他部署にも気軽に相談できる人がいるので助かっています。OJTの時に名古屋支店に4ヶ月いたのですが、今でも名古屋の方が東京の案件について私に相談してくれ、それがそのまま私の担当になったり、その逆もあつたりと、仕事に直結しているのが、OJTがあつてよかったと思っています。

合原 ■ 私もOJTの期間が1年3ヶ月もあつたので、本当に大勢の方と会いました。学生時代は考え方が近い人とはばかりつるんでいたのですが、OJTでは経験や価値観が違う先輩や上司と接して、業務のことはもちろん、仕事への取り組み方などにも触れることができたのは貴重な体験でしたね。社会人デビューをする上でとても勉強になったし、今でも業務上のコラボレーションはもちろん、一緒に飲みに行けるような先輩がいるのは、ありがたいことですね。

西川 ■ 私は2017年度の入社なのですが、当時のOJTは8ヶ月くらいの間に4~5部署を回っていましたね。私の場合は、東京のアセットマネジメント部(以下AM)とPJM、それから関西のPJMという2部署、2拠点でした。他部署を回ることで、不動産に関する広範囲な知識を身に付けられたのがよかったですね。あとはやはり人脈ができたことが一番のメリットです。今でもAMの方とも交流がありますし、そこからプロジェクトにつながった案件もあります。全社的に見ても、OJTで部署



Gohara Takuya

や拠点のローテーションを経験した若手が、上司から相談を受けて他部署間をつなぐハブの機能を果たしているように感じます。

自主性を重んじる風土の中で キャリアアップを目指す環境

— 今まで仕事を通じて感じたやりがいや達成感についてのエピソードは？

合原 ■ PMに本配属になって最初の2年は期中担当で、主に物流施設のプロパティマネージャーとして、オーナーの代行という立場で日々の業務を行っていました。もっとも重要なのはテナントの日常の業務が滞りなく遂行されることですが、時にはさまざまな問題が発生します。その時にはオーナーとテナントという、相反する立場の人たちと相対して問題解決を図る必要があります。工事関係者や、ビル清掃など日々の管理をしているBM会社など、利害が交錯するいろいろな方々の声を聞き、コンセンサスを取りながら早期に対処していくわけで、その調整を図る点が大変ですがやりがいを感じるところでもありました。また現在のBDチームとしては、PM業務を受託した物件を立ち上げる際、テナントの営業開始日が決まっているので、その時間軸に合わせて、さまざまな知見を持った方々とコラボしながら、業務を遂行することに達成感があります。

九里 ■ ありきたりかもしれませんが、お客様に満足してもらえた時と、過去に成約したお客様からのリピートで、もう一度、依頼をい

ただいた時にはやりがいを感じますね。先日、新人の時に仕事だけではなく、社会人としてのあり方まで注意といいますがご指摘いただきながらも、契約を結んでくださったお客様から、5年後になって本社移転の案件をご指名だけいただきました。その際には新人の時とは違い、信頼して頼ってください、内容にも満足いただけたので、一人前と認めてもらえたことが嬉しかったですし、やりがいを実感できた瞬間でした。

西川 ■一番やりがいを感じたのは、入社2年目に任された「ニッサンパビリオン」のプロジェクトですね。日産のブランディング施設を開発することになり、その基本計画からプロジェクトマネジメントまでメインで担当しました。みなとみらい21の何も無い土地に建物を建てて、実際に運営するところまでやるので、ハードルは高かったです。



が、最終的にそれが形になって、そこに多くの人々が訪れるのを見た時は、社会に貢献できていると実感しました。さらにそのプロジェクトはいろいろなところで評価をいただいて、建築業界で有名な「新建築」という雑誌に、名前と顔写真、経歴やコメントなどを載せてもらえました。その他の雑誌にも掲載されたほか、「日本空間デザイン賞」などいくつもの賞を受賞することができるなど、学生時代から個人的に夢見ていたことが現実になったことは、大きな達成感があったし嬉しかったですね。また、そこから派生して多くのプロジェクトを受託できたこ

ともやりがいにつながっています。

— CBREについて入社前と入社後のギャップや、実際に働いてみて感じたことは？

西川 ■就活中は外資系企業のイメージで、成果主義でバリバリとハードに仕事していると思っていたのですが、入ってみると、むしろ外資系のいいところである、フランクでみな平等、自由や個人裁量を尊重する会社だと感じましたね。

合原 ■私も同じ印象です。固定席ではなくてABWなのは入社前から知っていて、自主性を重んじる会社だと感じていました。多様性もあり、自己主張が得意でない人にも優しい風土があり、フランクで相談しやすい環境が整っていると感じています。

九里 ■入社当初は皆さん、華やかにキラキラ働いているイメージを持っていました。でも、その方々も裏では情報のアンテナを研ぎ澄まし、地道に努力している姿を見るにつけ、尊敬できる先輩が多いなという実感がありますね。

— 入社前に希望していた部署とは違う部署への配属の方もいると思いますが、違和感はありませんか？

九里 ■入社当初は、オフィス移転や働き方改革をサポートするワークプレイス戦略（以下WPS）がいいと思っていました。でも、OJT期間を通じて、自分のやりたいことはWPSではないと感じていたため、むしろ今のATSOでよかったと思っています。

合原 ■私はWPS志望でしたので正直悔しい部分もありました。でも、PMに配属になり実際に今の業務に携わるようになって、特に物流施設関連は、学生時代は何も知らなかった分、知的好奇心をくすぐられてすごくおもしろいですし、自分にとって未知の分野

を知る機会を得られたことはむしろよかったと思っています。物流関連は、これからさらに重要な分野になっていくので、楽しみも大きいですね。

— 最後に自身のキャリアとして今後チャレンジしたいことと、5年後のご自分の目指す姿を教えてください。

西川 ■PJMでは現在、移転系の案件が大半で、開発系はまだ多くないのが現状です。ですから、自ら営業し、開発案件を受注するために、開発スキームやステークホルダー、顧客ニーズの把握など根本的なところを理解できるよう、勉強していきます。また、英語のプロジェクトにも挑戦して自分の枠を広げ、5年後には自らリードして開発プロジェクトを推進できる人材になりたいです。

合原 ■PMはオーナーの一番近くにいる、代行としての業務を担う役割なので、言い換えれば多種多様なサービスラインのハブになれる存在ですから、BDチームとしてそうなるよう頑張っていきたいです。また、この会社にはロールモデルとなる人物がたくさんいて、私のロールモデルと言える人物と、今、大阪と一緒に仕事できていることを嬉しく感じています。その方がPMの保守的な管理だけでなく、周囲を巻き込んで、さまざまに仕掛けて行くのを目の当たりにしているので、5年後と言わず、1日も早くその人に追いつき追い越せ、が今の目標ですね。

九里 ■今年からは、今まで以上に提案営業が求められているので、早くそのスキルを磨いて、ゼロからイチを産み出す営業を目指しています。それと5年後には、結婚して子供を産んでもバリバリ働いている女性のロールモデルになりたいですね。

— 本日はお忙しい中、貴重なご意見をありがとうございました。皆さんのますますのご活躍をお祈りします。

「この会社を選んだ理由、この仕事が好き理由」●新卒採用編

優秀な人材の獲得に欠かせない母集団形成 CBREの施策とは？

プロフェッショナルをどのように獲得・育成するか、それが私たちの大きな課題でした。より多くの学生に事業用不動産業界およびCBREの業務内容を知ってもらい、興味を持ってもらう必要があると考え、これまでもさまざまな施策を実施してきました。限られた採用枠の中で、説明会に参加する学生の数を増やすだけでなく、CBREと事業用不動産に深い興味を持つ学生を見極めることを重視し、プロセスの見直しや内容の変更を行っています。

PR

- 就活媒体をナビサイトに変更し、SNSも活用
- 大学での会社説明会などに積極的に参加
- 会社案内のコンテンツの充実とデジタル化

選考プロセス

- 事業用不動産への興味を喚起する、願書（エントリーシート）の設問内容に変更
- 会社全体の目線で学生を評価できるよう、面接官を増員
- 2022年度より、新しい取り組みとして動画選考を導入。人柄を重視しつつ、選考段階でプレゼンテーション能力も考慮
- 2020年より、4つのビジネスシミュレーションゲームを導入

インターンシップ

- 2019年より、事業用不動産への理解を深めてもらうことを目的に、インターンシップコンテンツ開催日数を増加
- 内容をよりインタラクティブなものにし、難易度をUP



※選考状況によって、上記プロセスが前後もしくは新たな面接が加わることもあります。



不動産のプロフェッショナル集団であるCBREは、あらゆるビジネス環境において、事業を成功させるチャンスが存在すると考えています。CBREは、ビジネスにおける見識、経験、およびリソースを駆使し、お客様が適切な情報に基づき不動産についての意思決定を行うことを支援しています。さまざまなバックグラウンドを持ってCBREに集まった社員は、コラボレーション、および蓄積された膨大な情報とノウハウを活用しながら、卓越した結果を生み出すことへのコミットメントを共有しています。

採用についてのお問い合わせは、CBREタレントアキュイジションチームへご連絡ください。 recruit@cbre.co.jp

最新の求人情報はこちらからご覧いただけます。
cbre.co.jp/recruit



CBRE